

事業所名

オスリー

支援プログラム

作成日

2025年

1月

16日

法人（事業所）理念		「無為自然」己の価値観にとらわれることなく多面的に物事を検証し職務にあたる					
支援方針		子どもの特性を見極め最大限に発揮できる支援を目指し保護者を含め日常生活をさらに充実できるようにサポートしていく					
営業時間		10時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	睡眠・食事・排泄などの生活リズムの確立すると同時に身の回りの清潔保持の為に排泄や入浴支援をおこなう。 本人の特性を配慮し空間や時間をわかりやすく構造化する。 生活動作において安全を確保するために介助を行うと共に自身で行える作業に関しては自立を促し見守っていく。					
	運動・感覚	姿勢の確保や上肢・下肢の運動・動作の改善や習得。関節の変形や予防、筋力の維持・強化する。 感覚の敏感や鈍麻を踏まえ感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。 五感を通じて感覚統合を図りそれぞれの情報を処理できる。身の回りの状況を理科出来るよう働きかける。					
	認知・行動	本人にあった情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。またこだわりなどに対する支援を行う。					
	言語 コミュニケーション	指さし、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 各支援の中で本院の自己決定の機会を設け言語・非言語のコミュニケーションを活用し聴取していく。					
	人間関係 社会性	感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせ象徴遊びを通して社会性の発達を支援する。 集団での療育を通して自己主張と協調性を形成するための支援を行う。					
家族支援		家族の負担を軽減し前向きな気持ちで向き合えるように精神面も支援する。			移行支援		就学や進学に伴い、本人に効果的な取り組みや配慮すべき点などの情報を保護者や学校と共有する。
地域支援・地域連携		学校や医療機関との役割分担を明確にし連携をはかる。学校行事や地域のイベントに瀬局的に参加する。			職員の質の向上		適切な人材の採用と育成、定期的な研修や会議を開催する。ストレスチェックを導入しメンタルヘルスの推進をおこなう。
主な行事等		四季にあった行事（おもちつき、まめまき、花見、プール開き、など）を積極的に取り入れている。 市が主催する障がい者のイベントに積極的に参加している。					

事業所名 放課後等デイサービスオスリー

公表日 R7 年 2 月 7 日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		ベッド上やマット上で過ごすだけでなく、スタッフルームでもバギーに乗って過ごしてもらっている	利用児童が多い日は移動経路が制限されるため、バギーの配置をデスク周辺にまとめておく
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		当日の担当に縛られず、全体で連絡帳の記載や入浴、レクリエーションを行い一人が複数人を見ることがないようにしている	専門職員の増員を検討する
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		排泄介助や入浴時には一時的にパーテーションを立てることがあるが、平常時は全体が見渡せるような配置になっている	ポータブルトイレ周辺に手すりや棚があると介助度が軽減される可能性あり
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		一日の業務終了後に事務所の清掃、消毒、汚染物の洗濯を行い衛生面の保持に努めている	夏場は虫も多く発生する為、児童不在の時間帯で殺虫作業を行う
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		大きな音が苦手な児童も在籍しており、スタッフルームでの静かな環境で過ごしてもらおう事もある	苦手な環境にも徐々に慣れていけるような声掛けや接し方をする
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		カンファレンスを開く際には常勤スタッフだけでなく非常勤スタッフにも参加を促し内容の周知を促している	継続して実施
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		支援計画に基づき支援内容の確認、修正を行っている	継続して実施
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		業務内で改善すべき点が見つかった場合はスタッフ間での話し合いの下、対策案を出し合い次回以降実践に移す	継続して実施
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現状、第三者による外部評価は行われておらず自己評価のみに留まっている	必要に応じて第三者評価の導入を検討する
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		虐待研修や災害研修の他、児童の通う病院や療育園への見学も行い自己研鑽に努めている	継続して実施
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラム作成後は保護者に内容の確認を取り必要に併せて修正を加えている	継続して実施
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	○		児童だけでなく、保護者や学校の先生からの意見を踏まえて支援計画を作成している	継続して実施
	13 児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者に加え、看護師や言語聴覚士、音楽療法士、児童指導員らを含めて検討している	継続して実施
	14 児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		作成された支援計画書は全職員が一読し内容の把握に努めている	継続して実施
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		児童一人一人の状況を把握し、平常時と異なる異変が見られた際には保護者への伝達を行い、必要があれば医療機関を受診する	継続して実施
	16 児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児童の支援に必要な項目は様々な視点から全体像を捉え内容を設定している	継続して実施
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムの立案は全体で考え、季節感を感じられるイベントも企画している	継続して実施
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		同一の内容を行うこともあるが、対象児童によって反応も異なるため細かな変化を加えつつ提供している	完全に固定化してしまわないように月ごとの活動内容をまとめていく
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動を適宜組み合わせで作成している	継続して実施
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		当日、児童の担当を決め話し合いの下、レクリエーションやミスト浴の時間帯を決め、合間にはリハビリを実施している	継続して実施

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		振り返りの中で気づいた点は全体で共有し、改善すべき点があれば早急に対策を考える	継続して実施	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		連絡帳に一日の様子を記載しており、排泄や水分摂取の回数を記載する他リハビリに関しては必要に応じて動画撮影をして送っている	継続して実施	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングと共に目標や各内容の再設定を行っている	継続して実施	
	24	【放デイのみ】 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		地域交流の機会が少ないものの、創作活動や自立支援等組み合わせを行っている	地域との交流する場を設けていきたい	
	25	【放デイのみ】 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		スタッフが傍らで見守り誘導を要する場面もあるが、基本的には自己決定を促すための声掛けを心がけている	継続して実施	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		専門的な評価や今後の目標について回答できるよう日々、担当することが多いスタッフが参加している	継続して実施	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		近隣のクリニックにて定期的に往診を依頼している	継続して実施	
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	○	現状、児童発達支援センターとの連携は図れておらず助言を受ける機会は少ない	今後、必要性に応じて児童発達支援センターとの連携を図る	
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	○	現状、地域活動への参加は行えておらず他の児童と交流する機会は少ない	需要に応じて地域や他事業所との交流を図っていく	
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時保護者と一日の様子を話し合う他、学校の担任教員からも日々の生活場面について情報収集をしている	継続して実施	
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	○	現状、保護者に対する研修は企画できておらず外部の研修があれば紹介するに留まっている	必要に応じてペアレントトレーニングの導入を検討する	
	32	【児童事業所・児童センターのみ】 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。					
	33	【児童事業所・児童センターのみ】 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。					
	34	【児童センターのみ】 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	35	【児童センターのみ】 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	36	【児童センターのみ】 (自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	37	【放デイのみ】 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			年間計画は事前に確認し、送迎時には一日の様子を伺っている他、LINEグループを活用し保護者との連絡は密に行っている	継続して実施
	38	【放デイのみ】 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			保護者からいただける資料があれば拝読し、児童の特性を把握するよう努めている	継続して実施
	39	【放デイのみ】 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	○		現状、まだ卒業生は出ておらずサービス間の移行に立ち会っていない	今後、情報提供の必要があれば保護者の同意の下提供する
40	【放デイのみ】 (自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○	○		現状、協議会等への参加は行えていない	今後、必要に応じて協議会への参加も検討していく	
	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			運営規定、支援プログラム、利用者負担等の説明は利用開始前のオリエンテーションにて行っている	継続して実施
	42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			支援計画の作成においては、児童含め家族の意向を聴取し、家庭や学校生活等全体像を捉えた上で作成している	継続して実施
	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			適宜支援計画の説明を行い、同意を得た上で児童と関わっている	継続して実施

保護者への説明等	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時の会話の中で相談を受ける場面があり、デイサービス内で対応可能なものであればスタッフ間を話し合い対応している	今後、必要に応じて事業所内での面談を検討
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	父母の会の活動には参加できておらず、兄弟に関する支援も行えていないのが現状である	需要を求められた際には家族、兄弟間への支援内容を検討、導入を図る
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		送迎時に直接ご意見をいただくこともあればLINEを通じて相談事をいただく場合もあり、柔軟な対応を心がけている	継続して実施
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページでの宣伝や定期的にご家庭に送る紙媒体での便りで主に情報発信をしている	継続して実施
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報はファイルに閉じ保管している。	継続して実施
	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		言語のみでなく、表情や仕草等非言語でのコミュニケーション方法で意思疎通を図っている	継続して実施
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	以前に音楽会を行った際は保護者への招待を行ったが、地域全体に向けての発信は行っていない	自治体を通して地域住民に対しても活動内容を発信していきたい
	51	【放デイのみ】家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時でのやりとりの中で相談を受けた際には可能な範囲で支援を検討、導入している	継続して実施
非常時等の対応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを作成したり、各研修を受けた際にはその内容についてご家族様に通知している	継続して実施
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		最寄りの学校を避難場所に設定し、非常時の訓練を実施している	継続して実施
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		服薬やてんかん発作等の情報は医療関連の資料としてファイリングしている	継続して実施
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		事前にアレルギーの有無を保護者に確認してアレルギーを抱える児童に対しては対象食品を避けるようにしている	継続して実施
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		地震や避難訓練等の安全研修は適宜行っている	継続して実施
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		災害時の受け渡し方法や緊急時の連絡先等は事前に確認、伝達している	継続して実施
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット、インシデント等はレポートにまとめ全スタッフで内容を共有している	継続して実施
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部の講師を招き、虐待についての研修を受講している	継続して実施
60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		基本的に拘束することは避けているが、児童に危険が及ぶ可能性がある場合やむを得ずに一時的な拘束を行うことを伝達している	継続して実施	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスオスリー			
○保護者評価実施期間	R6年 10月 30日		～	R7年 1月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	19
○従業者評価実施期間	R7年 1月 7日		～	R7年 1月 11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、学校とトライアングルの口頭やLINE連絡で子供達の情報共有ができています。 ・事業所内での活動は勿論、音楽活動を通して更にオスリーの強みとなった。 ・リハビリやトイレ練習等、個別活動での機能練習は保護者にとっても好評だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の事業や四季を感じる活動を心がけている点や子供達それぞれの個性を活かした個別活動や集団活動(外出、音楽)は子供達の可能性(特技)を引き出している。 ・長期休暇時は外部活動を取り入れ様々な経験ができるよう工夫している。 ・連絡帳やLINEを活用し訓練場面を詳細に伝達している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個性を大事に適宜アセスメントを行い子供達や保護者のニーズや課題、希望に寄り添い支援していく。 ・地域との交流、イベント参加等。 ・子供の成長に合わせて活動内容を変化させていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動に力を入れており、普段見慣れない楽器に触れ音楽に親しんでもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽以外に季節に沿った製作や外出を取り入れている。 ・土曜日や長期休暇の期間には遠方への外出や、その先での昼食を取ったりイベント企画も楽しめるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の活動に参加しより多くの方々と接することで事業所の事を知ってもらおう。 ・地域のデイサービスや施設との交流を増やし、更に充実した取り組みを模索していく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・専門スタッフのマンパワー不足 ・活動のプログラムが固定化されつつある ・リハビリやミスト浴においては限度回数に満たないことがある ・音楽以外の療育活動をもう少し取り入れる ・他事業所や地域との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・平日はミスト浴等で利用時間も短いことから活動内容が固定化されている ・保育士が不在 ・長期休暇以外の平日は短時間の中でおやつ、入浴、医療的ケアを行う為あっという間に時間が過ぎてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の対策や避難訓練の徹底 ・一か月単位の活動プログラムの立案 ・児童指導員、保育士の確保、療育に対する意識の向上 ・時間のある長期休暇中に地域や他事業所との交流を図り、徐々にコミュニケーションを増やしていく
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	放課後等デイサービスオスリー		公表日		R7年2月7日		利用児童数		R7年1月7日		回収数		19	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応							
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	1				マット上だけでなく、食事やリハビリ時にはスタッフルームを活用し圧迫感の無い環境調整を図っている						
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12			7	・新しい職員の方が入った際には教えて欲しい ・少ないとは思えない ・看護師を含めスタッフが何人いるのか分からない	新規のスタッフが入った際には連絡帳や毎月作成している事業所からの便りを通じて紹介をする						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	2				事業所内は常に全体が見渡せるよう配置を考えスタッフが見守っている						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18			1		毎日、児童の帰宅後に清掃・消毒を行っており衛生面の保持に努めている						
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18	1			とても丁寧に訓練していただいている 呼吸リハや理学療法士の身体のほくしがあれば嬉しい	今後、STだけでなくPTやOTの配置も検討して児童の情報共有を図っていく						
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19					公表している支援プログラムと実際に行っている支援内容に齟齬が出ないように注意していく						
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画や放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19					児童の成長に合わせて定期的な支援計画の作成を行い、目標設定が適切であるか考えていく						
	8	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19					児童の機能面だけでなく、保護者の抱える問題や学校での様子等を全体的に捉え支援内容を設定している						
	9	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）に沿った支援が行われていると思いますか。	19					全体像を踏まえた支援計画に基づき支援を行っている						
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18			1	・イベントの行事はよくやってもらっているが普段特に土曜日の活動内容の記載が無い ・色々なアイデアを下に工夫されている	イベント活動時だけでなく、平常時においても連絡帳やLINEでの連絡により対象児が何をしておこなっているのかを詳細に伝えていく。						
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	3	5	5	・必要性を感じない為問題は無し	今後は長期休暇期間等、地域での交流の場にも向かい活動の幅を広げて行く						
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19				・きちんと説明を受けた	事前のオリエンテーションにて説明を行い、不明な点があればその場で確認をしている						
	13	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18		1			事前のオリエンテーション内に説明を行い、保護者の確認を得ている						
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	5	1	3		送迎時や連絡帳で保護者の抱えている問題を聴取し、スタッフ間で共有し解決策を考える						
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	19					送迎時には一日の様子を保護者に伝え連絡帳やLINEにおいても確認をいただいている						
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	4				支援計画書やリハビリ実施計画書等の定期的なモニタリングの中で必要な支援を見出して						
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19				・日々密にやりとりしていただいている	児童の抱える問題や課題等、全体で把握できるように定期的に話し合っている						
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	4	4	5		保護者同士の交流については現状デイ内では行われていない為、今後そういったニーズが聴取されるようであれば企画していこうと考えている						
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18			1		LINEでのやりとりで相談や申入れを受け付けている他、送迎時に直接お話をいただく場合もあり、可能な範囲で柔軟な対応を心がけている							
20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19				・LINEグループを活用し直ぐに連絡が 取れてありがたい	児童と保護者は常にセットで捉え双方とのやりとりを重している							

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17	2			評価表の記載を求めた後は、インターネット上にて結果を提示する
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18		1		・キャミオジバンのギャラリーに子ども写真や名前が出ている ネット上に挙げられる情報においては匿名性を重視し、各家庭への確認の下注意して扱っていく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	2		2	・災害時の訓練はされている 災害時のシミュレーションや緊急時の対応マニュアルを作成している
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18			1	・避難訓練も定期的に行われている 今後も定期的な避難訓練を実施する
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17	2			避難訓練等の研修があった際にはその内容を保護者へ伝えている
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18			1	・今まで無いので分からない 事故発生時には、直ぐにご家族様へ連絡し状況説明すると共に必要に応じて医療機関を受診する。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19				継続して安心感を持って通所いただけるよう関わっていく
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19				・とても楽しみにしている ・楽しそう 児童が楽しく活動できる内容を引き続き提供していく
	29	事業所の支援に満足していますか。	19				・満足している 児童、御家族様共に満足していただけるよう引き続き関わっていく